

記事 039 山吹谷公園へ行ってきました。

なぜ、起伏のある景勝地があったのか

村松憲一

山吹谷公園に行ってきました。江戸時代の山吹谷は、現在の名古屋市東区^{しゅもくちよう}榎木町周辺に位置していました。名古屋城下の東側（現在の市役所や県庁の東方）に位置し、起伏のある豊かな自然と水が流れる「谷」の地形を活かした景勝地として、「尾張名所図会」（図1）「名陽図会」（図2）などにも描かれました。熱田台地（熱田層）の上にある山吹谷周辺に起伏に富んだ地形があった理由は、熱田層と大曽根層の分布に関係があるようです。そこで実際に行ってきました。図3は地質図です。大曽根層の分布地は熱田台地を現在の庄内川か矢田川にあたる川が削ってできた低地です。図3でわかるように山吹谷公園は熱田台地が東側にある大曽根層分布地に接するあたりにあります。そのた



図1 山吹谷（前田，2007）



図2 山吹谷（名陽図会）



図3 山吹谷公園付近の地質図
（土質工学会中部支部，1987 に加筆）



図4 山吹谷公園南側で見られる坂道
東方向

め東側（大曽根層分布地）が低くなっており、南北方向の小さな谷（鳥屋筋）ができていたようです。西側は名古屋城があり、高くなっていたようです。名古屋城下の発展とともに武家屋敷が広がり谷は埋まり、町筋ができていきます。現在の山吹谷公園や西隣の山吹小学校のあたりで、公園の南側と北側を東西に走る道路は現在でも東方へ緩やかな坂道になっています（図4）。また、数百メ

ートル北側は熱田台地の北縁にあたり斜面になっています。したがって、北側も見晴らしがよかつたかなと思います。

山吹谷公園には戦争遺跡として「名古屋市立第三高等女学校」の慰霊碑や空襲で半分欠けた「八紘一宇」の碑（図5、1940年、教育勅語下賜50周年を名目に設置された）が見られます。私の母校の同窓会会館に教育勅語の入っていた黒い漆塗りの立派な箱が無造作に残されています。「八紘一宇」の用語は終戦時にGHQによって公文書での使用が禁止されています。公園は「名古屋市立第三高等女学校」の跡地であり（図7）、大曾根の三菱航空機に勤労働員されていた生徒42名が1945年の空襲で、爆死した慰霊碑があります（図6）。「名古屋市立第三高等女学校」は旭丘高校に同窓会が残っているそうです。

明治維新によって名古屋城周辺にあった武家屋敷は空き家が多くなります。江戸でも多くの大名屋敷が空いて代々木公園や新宿御苑などの公園に変わっていますが、このあたりは陶磁器の輸出関係（絵付工場など）の工場や企業が進出したようです。山吹谷公園周辺は尾張藩の中・下級武士の屋敷があったところで、各屋敷は500～700坪程度の敷地があり、分地されずに広いま引き継がれてきたため工場の敷地に適したようです。公園の北側に「撞木館」があります（図8）。撞木とは、鐘な



図5 八紘一宇の碑
一宇の部分が残っています

どを打ち鳴らす丁字型の仏具のことで撞木館の“撞”は初期に誤記されたものがそのまま伝わってしまったそうです。大正末期から昭和初期にかけて建てられた陶磁器輸出業を



図6 第三高等女学校慰霊碑



図7 山吹谷公園付近の地図（撞木館展示）

営む井元為三郎の屋敷跡です。2階に輸出向けの陶磁器が展示してありました（図9・図10）。この地域の洋風建築が多いことを米軍側にも知られており、後に利用することを考えて爆撃せず、戦後は進駐軍将校の住宅地として利用されたといわれます。

この地域から西北西へ数百メートルのところにも名古屋市政資料館があります。久しぶりに寄ってみました。入ったところにある有名な大理石で造られた中央階段では結婚式の前撮り？が行われていました（図11）。旧名古屋控訴院（現在の高等裁判所）の跡ですので、地階には留置所があり見学できます（図12）。子供のころ父にある警察署の地下にある留置場を見せてもらった思い出がありま

す。

公園の西隣の山吹小には桂化木？が展示してありました（図13）。



図8 檀木館



図9 檀木館内部の展示



図10 檀木館内部の展示



図11 市政資料館中央階段



上 図12 市政資料館留置場

右 図13 市政資料館留置場 独房





図 13 珪化木 山吹小

引用文献

土質工学会中部支部，1987，最新名古屋地盤図．名古屋地盤図出版会，487p.

前田栄作，2007，尾張名所図会．風媒社，182 p.